

I 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

中国大陸をいかに統治するかをめぐり、歴代王朝は暗中模索を続けた。殷は、卓越した技術力や文化を背景に、神権政治を展開した。続く周は、王の一族や功臣、土着の首長らを各地に封建し、宗法と世襲の制度を用いて社会の安定化を図った。春秋戦国時代に諸侯間の競争が激化すると、彼らは覇者を選び、会盟を開催し、つかの間の平和を維持しようとした。また、諸子百家が登場し、それぞれの理想的社会像を掲げて論争を展開した。

秦が天下を平定すると、官僚を派遣して統治させる（あ）が広く整えられた。漢は、一部の地域に諸侯を配備すると同時に、直轄地に対しては（あ）を施行し、官僚による政権運営を図った。官僚の起用にはいくつかの方法があり、地方長官の推薦による郷挙里選などが行なわれた。三国時代には九品中正制が実施され、それは門閥貴族の台頭を招いた。

一方、隋代以後には科挙の制度が整えられていった。とくに史上最初の女帝として君臨した則天武后（武則天）は、既存の貴族社会を抑え、科挙官僚を積極的に任用した。科挙は、ほぼ全ての男性に開かれた試験制度として徐々に整備されつつあり、門閥貴族と科挙官僚は対立する傾向にあった。則天武后はこうした両者の対立関係をうまく利用することによって、自らの権力基盤を固めたとも評せるかもしれない。いずれにせよ、こうした科挙の台頭に伴い、唐では外国出身の優秀な人材が抜擢されることもあり、たとえば日本からの遣唐使船に留学生として同乗した阿倍仲麻呂は、科挙に合格して玄宗に重用されたともいわれ、安南節度使等を歴任している。

やがて宋代になると、科挙の重要性はより高まっていった。科挙の試験科目は、詩歌の作成や、儒学の經典解釈など多岐にわたり、とくに受験生には儒学的素養が求められた。しかも宋代には、經典中の一字一句の解釈を重んずる訓詁学に代わり、經典全体の哲学的理解を重んずる宋学が台頭した。宋学の拡大に伴い、儒学的教養をもつ有徳の士大夫こそが科挙官僚たりうるという考えが社会に広まり、政治家や官僚には、高度な学識のみならず、高い儒家的倫理性が求められた。ほぼ全ての男性に受験可能な科挙の整備と台頭は、貴族制社会のありようを根底から覆すものであり、能力主義の仕組みは、まるで現代の自由主義社会を彷彿とさせるものである。ゆえに歴史学者の中には、「中国は世界に先駆けて近世に突入した」と評する者もいる。

その後も科挙は、中国社会を彩る特徴のひとつであり続けた。たとえば、モンゴルが中国を制圧したときにも、科挙は一時停止されたものの、やがて復活を遂げている。明代や清代にも科挙はその重要性を失わず、主要な官僚登用制度であり続けた。だが義和団事件以後の清は、変法を求める官僚の意見をふまえ、1905年に科挙を廃止した。

設問1 下線部 a に関して述べた以下の文のうち、最も適切なものはどれか。

- ① 殷人は「天」とよばれる最高神を祭り、周人が「帝」を祭ったのとは異なる。
- ② 城壁でかこまれた都市（邑）を複数従属させた国家のひとつが殷である。
- ③ 殷の禪譲によって周が台頭した。
- ④ 甲骨文字や人畜が殉葬された殷墟は、殷代初期の遺跡である。

設問2 下線部 b に関し、次の A～D の出来事を古いものから新しいものへ時代順に並べたとき、適切なものはどれか。

- A 晋が分裂し、韓・魏・趙の三国が誕生した。
- B 商鞅の変法によって秦が台頭した。
- C 周が都を洛邑に移した。
- D 韓非が秦王政に招聘された。

- ① A → B → C → D ② C → A → B → D
- ③ B → C → A → D ④ A → C → B → D

設問3 下線部 c に関し、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① 『孟子』はのちの朱子学に影響を与えた。
- ② 『荀子』では性悪説、『孟子』では性善説が説かれた。
- ③ 『左氏伝』・『公羊伝』・『穀梁伝』は『春秋』の注釈書である。
- ④ 『孫子』では兼愛と非攻に基づく兵法が説かれた。

設問4 空欄（あ）に入る制度名として最も適切なものはどれか。

- ① 郡国制 ② 封建制 ③ 郡県制 ④ 共和制

設問5 下線部 d に関し、三国のなかでも、漢から帝位を禅譲された魏の皇帝の名前として最も適切なものはどれか。

- ① 劉備 ② 曹丕 ③ 曹操 ④ 孫権

設問6 下線部 e に関し、玄宗期の事柄について述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① 府兵制の崩壊に伴い、募兵制が実施され、節度使への兵力集中がすすんだ。
- ② 王維・杜甫・李白・白居易が詩人として活躍した。
- ③ 安史の乱が勃発した。
- ④ タラス河畔の戦いで、唐軍がアッパース朝軍に敗北した。

設問7 下線部 f に関し、訓詁学と宋学について述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① 後漢時代の訓詁学者としては鄭玄が有名である。
- ② 唐代には、科挙制度の整備に伴い、訓詁学が再注目され、孔穎達の『五経正義』が編纂された。
- ③ 宋学は、北宋の周敦頤に始まり、南宋の朱熹によって大成された学問的潮流であり、朱熹は四書を重視したことで知られる。
- ④ 16世紀初めには王重陽が登場し、朱子学を批判した。

設問8 下線部 g に関し、モンゴルに関連して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① チンギス=ハンは、遊牧民を千戸制によって編制した。
- ② チンギス=ハンは東欧に親征し、ワールシュタット（ヴァールシュタット）の戦いでポーランドの諸侯やドイツ騎士団を破った。
- ③ フビライが興した元では、駅伝制が整備され、イラン系ムスリム商人が活躍した。
- ④ 郭守敬が授時暦を作った。

設問9 下線部 h に関し、次のA～Dの出来事を古いものから新しいものへ時代順に並べたとき、適切なものはどれか。

- A 義和団事件が起こった。
- B 戊戌の政変が起こった。
- C 康有為・梁啓超らが光緒帝に起用された。
- D 西太后が皇帝の後見人として政治の実権を握った。

- ① B → A → C → D ② C → A → B → D
- ③ D → C → B → A ④ A → C → B → D

Ⅱ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

① 元首政期のローマでは、皇帝の權威によってその活動を保障された法学者が古代ローマにおける法学の最盛期をもたらした。現在の民法典の構成にまでつながる法学の体系が成立し、古代ローマ法学の成果は最終的にはユスティニアヌス1世(大帝)の『ローマ法大全』にまとめられた。『ローマ法大全』には法学者の見解や歴代の皇帝の立法が伝えられている。さらに、『ローマ法大全』は中世・近世・近代の法学の基礎を提供した。

西ヨーロッパ世界は、② 4世紀後半に生じたゲルマン人の大移動に始まる大きな混乱期を経て、1000年頃から安定と成長の時期を迎えた。この時期に達成された③ 経済的発展は余剰生産物の交換による商業の活性化をもたらし、商業活動の中心としての都市、そして、そこに暮らし生産活動に直接的には従事しない人々を生み出した。彼らの一部は④ 12世紀には都市に大学を形成した。ボローニャ大学もその一つで、中世キリスト教社会における神の意思を伝えるテキストとして、『ローマ法大全』が研究された。

⑤ 14世紀にイタリアで始まったルネサンス運動は、法学に大きな変革をもたらした。古典古代世界に立ち返ろうとするルネサンス運動においては、正しく古典古代世界を伝えるテキストが求められた。『ローマ法大全』に伝えられる法文の中でも古代ローマ法学の最盛期を伝えるテキストこそ、古典古代世界を伝えるものと認識された。法は中世では歴史を超えて存在する神の意思を体現するものだった。今や、古典古代世界を伝えるテキストに見出せる法とそれ以降の時期にかかわるテキストに見出せる法に違いがあることが認識され、法はそれぞれの時代で異なるものでありうると理解されるに至った。こうした新しい法学を推進したのがユグノーの法学者だった。しかし、彼らは⑥ ユグノー戦争の中で殺害され、あるいは亡命を余儀なくされた。なかでもドネルス(ドノ)はカルヴァン派の多かったネーデルラント北部7州の中心都市ライデンに亡命し、ライデン大学にこの新しい法学を伝えた。

ライデン大学で学んだ代表的な法学者がグロティウスである。グロティウスは、宗教戦争の平和的な防止と収束にとって、旧教徒の法学(中世法学)も新教徒の法学(ユグノー派の法学)も有効でないことを認識し、『ローマ法大全』に伝わるあらゆる民族に等しく適用される自然の法を基礎に、自然法思想は⑦ イギリスやフランスでは近代市民革命の思想的基礎を提供した。プロイセンやオーストリアでは⑧ 18世紀後半に自然法思想に基づく法典編纂が始まった。

19世紀に入ると、サヴィニーは、自然法思想の持つ普遍主義に対抗して、法はそれぞれの民族に固有のものであり歴史の所産であると主張し、歴史法学を創始した。彼の考えは大きな影響力を持ち、日本でも⑨ 明治期後半にサヴィニーの考えを引き継ぐ法学が受容された。

設問1 下線部①に関連して、元首政期のローマについて最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 元首政すなわちプリンキパトゥスとは、「市民のなかの第一人者」を意味するプリンケプスに由来する。
- イ 元首政においては、共和政の政治形式が払拭され、強力な軍隊と官僚制に基づいて皇帝がローマ市民を支配する体制が確立した。
- ウ ローマの元首政は、アウグストゥスにより始まり、ネルウァを初代とする五賢帝時代の到来によって終焉を迎えた。
- エ 元首政期に入ると、貧窮して都市から逃げ出した市民を使役する小作制(コロナトゥス)が、ラティフンディアに替わって、農業生産の中心となった。

設問2 下線部②に関連して、ゲルマン人の大移動について最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アッティラ王に率いられたフン人は、パノニアを中心に帝国を樹立したが、カタラウヌムの戦いでビザンツ帝国軍に敗北し、帝国は瓦解した。
- イ テオドリック大王に率いられた東ゴート人は、イタリア半島に東ゴート王国を建てたが、東ゴート王国はユスティニアヌス1世（大帝）により滅ぼされた。
- ウ ガイセリック王に率いられたヴァンダル人は、西ローマ帝国の首都ローマを略奪しつつイタリア半島を南下し北アフリカに王国を建てたが、この王国はユスティニアヌス1世（大帝）により滅ぼされた。
- エ アラリック王に率いられたランゴバルド人（ロンバルド人）は、北イタリアにランゴバルド王国を建てたが、この王国はフランク王国の侵攻を受け、カール＝マルテルによって滅ぼされた。

設問3 下線部③に関連して、中世に生じた経済活動の展開について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 耕地を三つにわけ、それぞれを秋耕地・春耕地・休耕地として順次利用して、3年で一巡する土地利用方法である三圃制が普及した。
- イ アルプス以北のしめって重い土壌を耕すために、重量有輪犁を牛馬に引かせる農耕法が普及した。
- ウ イタリア南部のモンテ＝カシノで創設されたシトー修道会を中心として、森林を切り開いて耕地を広げる開墾運動が展開された。
- エ ドイツ人はエルベ川を越えて東方に活発に植民活動を行い、スラヴ人などが居住していた地域のドイツ化を押し進めた。

設問4 下線部④に関連して、中世の大学について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 中世の主要な大学では、古代ローマ以来の一般教養とされる自由7科、神学・医学・法学の3専門科目が研究された。
- イ イタリア半島南部のサレルノでは、イスラーム文化の影響を受けた医学校から大学が成長した。
- ウ パリ大司教を長として形成されたパリ大学は、中世神学研究の中心に成長した。
- エ イングランドにおける神学研究の中心であったケンブリッジ大学、そして、そこからわかれてできたオクスフォード大学では、学寮（コレッジ）制が発展した。

設問5 下線部⑤に関連して、ルネサンス期の文芸について、作者と作品の組み合わせとして明白な誤りであるものを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ペトラルカ — 『叙情詩集』
- イ セルバンテス — 『ガルガンチュアとパンタグリユエルの物語』
- ウ モンテーニュ — 『エッセー（随想録）』
- エ チョーサー — 『カンタベリー物語』

設問6 下線部⑥に関連して、この当時のフランスについて明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ユグノー戦争は、シャルル9世とその母親である摂政カトリーヌ＝ド＝メディシスのもとで勃発した。
- イ ボーダン＝ド＝シヤムは、著書『国家論』において、国王を主権者と位置づけ、王権による平和と秩序の回復を説いた。
- ウ フィリップ4世によって創始されたヴァロワ朝が断絶し、ブルボン朝が始まった。
- エ アンリ4世は、ナントの王令（勅令）を発し、ユグノーにも大幅な信教の自由を与えて、ユグノー戦争を終結させた。

設問7 下線部⑦に関連して、近代市民革命に影響を与えたイギリスやフランスの思想家について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

ア ホブズは、『リヴァイアサン』で、人は自然状態では権利を主張して闘争状態となり、その解決のために契約によって政府を樹立し、政府に権利を委ねたと結論づけた。

イ ロックは、『統治二論（市民政府二論）』で、人は契約により自然権の一部を委譲して政府を形成し、政府による不法な統治には抵抗できると主張した。

ウ ルソーは、『人間不平等起源論』で、人は自然状態では平等だが、私有の発生によって不平等が生じると論じ、こうした不平等を制度化したフランス絶対王政下の社会を批判した。

エ モンテスキューは、アメリカ独立宣言に影響され、『法の精神』で三権分立論を展開し、アメリカ合衆国憲法の理論的基礎を提供した。

設問8 下線部⑧に関連して、18世紀後半のヨーロッパ文化について最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

ア モリエールを中心として、規則と調和を重んずる古典主義の文芸が展開した。

イ ドイツ観念論哲学を基礎づけたカントが『純粹理性批判』を出版した。

ウ ロマン主義音楽が主流となり、シューベルトやショパンが楽曲を残した。

エ ミレーを代表として、現実をありのままに描く写実主義絵画がうまれた。

設問9 下線部⑨に関連して、明治維新以降の日本の対外活動について最も適切な内容の文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

ア ロシアと樺太・千島交換条約を結び、樺太を日本領、千島をロシア領と定めた。

イ ロシアの南下を警戒するフランスと同盟を結び、アメリカからの支援も得て、ロシアに宣戦した。

ウ 東清鉄道支線の長春・旅順口間の利権を得て、南満州鉄道株式会社を設立した。

エ 韓国を併合し、ハルビンに朝鮮総督府をおいて、武断政治を行った。

Ⅲ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

スイスは、ヨーロッパの中心のアルプス山岳地帯に位置する連邦国家であるが、古来より諸民族や諸文明が交錯する要衝の地であった。^①紀元前5世紀ごろには、ケルト人がヌーシャテル湖畔に進出してラ＝テーヌ時代といわれる鉄器文明を築き、ヨーロッパ西方各地域に展開していったといわれる。紀元前1世紀に、カエサルがガリア地域に遠征したころ、スイス西部にはケルト系のヘルウェティイ人が居住しており、ローマ人は「ヘルウェティア」と呼んでこの地をその後支配した。5世紀に入ると、^②西ローマ帝国の統治力が衰え、ゲルマン系の民族がスイス地域に侵入し、とくにブルグンド王国が有力となったが、その後、諸民族が共存するようになり、ドイツ語・フランス語・イタリア語・ロマンシュ語がスイスで用いられる基盤が形成されていった。

6世紀には、スイスはフランク王国の統治下におかれ、さらに^③マジャール人やイスラーム勢力の侵攻を受け、11世紀までに、スイス全域が神聖ローマ帝国の支配下に入った。とくにスイス出身のハプスブルク家が有力となって^④封建的支配を続けたため、スイス諸邦のなかではハプスブルク家からの独立を目指す運動が強まり、^⑤13世紀後半に、三つの邦の代表者が集まって、スイス連邦の原型である「原初同盟（永久同盟）」を結成した。この邦の一つであるシュヴィーツという邦名が「スイス」の語源となり、独立を獲得する戦いが展開された。

16世紀には、スイスにも宗教改革の波が押し寄せ、チューリヒでは A が改革を進め、ジュネーヴではカルヴァンによる改革運動が実施された。16～17世紀には、ヨーロッパ各地で宗教戦争が起き、三十年戦争ではスイスでも戦闘が繰り返され、スイス人はとくに傭兵として活躍した。また、この戦争の最中に、スイスは「武装中立」という立場を

公式に宣言し、中立を維持するための連邦軍も創設した。三十年戦争を通じて、ヨーロッパは主権国家体制に移行したといわれるが、この戦争後の国際条約である1648年のウェストファリア条約で、スイスの独立が国際的に承認された。しかし、その後もスイス各邦では封建的な支配が続き、18世紀後半にジュネーヴなどで革命運動が起きた。フランス革命が起こると、その影響はスイスにまで及び、1798年にフランスの **B** 政府はスイスに中央集権的な「ヘルヴェティア共和国」を設立した。この共和国は短命で終わったものの、ナポレオン＝ボナパルトの調停によって、地方自治体制に基づく制度が復活した。1815年、ナポレオン没落後の国際会議で、スイスは、その独立が改めて確認されるとともに永世中立国としての立場が国際的に認められた。

設問1 下線部①に関連して、紀元前5世紀における出来事について述べた文章として、次の1～4の説明の中から最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 ギリシアのポリス連合軍は、ササン朝ペルシアとのプラタイアの戦いで、ペルシア軍に勝利した。
- 2 ベイシストラトスは、ギリシアの僭主政治を確立し、元老院の地位を強化した。
- 3 ローマでは、十二表法が制定され、慣習法が成文化された。
- 4 アルキメデスが、ポエニ戦争中に、ローマ兵によって殺害された。

設問2 下線部②に関連して、西ローマ帝国について述べた次の1～4の説明の中から最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 テオドシウス帝は、ローマ帝国を東・西ローマ帝国に二分して、みづから初代西ローマ皇帝となった。
- 2 西ローマ帝国は、476年にゲルマン人傭兵隊長のオドアケルによって侵略され、オドアケルがあらたな西ローマ皇帝となった。
- 3 アウグスティヌスは、西ローマ帝国時代に『神の国』を執筆し、キリスト教の弁護に努めた。
- 4 カール大帝は、教皇レオ10世からローマ皇帝の帝冠を与えられ、西ローマ帝国の権威を受け継いだ。

設問3 下線部③に関連して、マジャール人について述べた次の1～4の説明の中から最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 マジャール人は、インド＝ヨーロッパ語系のスラヴ民族に属している。
- 2 オットー1世は、レヒフェルトの戦いで、マジャール人を撃破した。
- 3 マジャール人は、10世紀末にハンガリー王国を建国して、ギリシア正教を受け入れた。
- 4 セリム1世は、モハーチの戦いでマジャール人を撃破して、ハンガリー支配を始めた。

設問4 下線部④に関連して、封建的支配について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 封建的な主従関係の制度は、ローマの恩貸地制度と、ゲルマンの従士制度に起源があるとされている。
- 2 封建的支配とは、主君が家臣に封土を与えて保護し、家臣は主君に服従義務をもつ双務的な契約制度であり、契約に違反すればそれぞれ拒否することができた。
- 3 封建的な主従関係においては、主君と家臣とのあいだで、臣従の礼と呼ばれる儀式が執り行われた。
- 4 封建社会において、領主支配の基本的な単位となった荘園では、領民は領主に対して不輸不入権（インムニテート）をもっていた。

設問5 下線部⑤に関連して、次のそれぞれの組み合わせの中で、13世紀後半のヨーロッパで起きた出来事の組み合わせとして正しいものはどれか。次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 第4回十字軍 — ワット＝タイラーの乱 — 英仏百年戦争の開始
- 2 ペストの最初の大流行 — マグナ＝カルタの制定 — ジャックリーの乱
- 3 ダンテの誕生 — シモン＝ド＝モンフォールの乱 — エドワード1世による模範議会の招集
- 4 インノケンティウス3世の教皇即位 — アナーニ事件 — コンスタンツ公会議

設問6 下線部⑥に関連して、フランス革命が起こる経過について述べた次の1～4の説明の中から誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 アメリカ独立戦争のヨークタウンの戦いで、植民地側が勝利したことを機に、フランスは参戦したが、膨大な戦費のためにフランスの財政がひっ迫した。
- 2 ルイ16世は、オーストリア大公マリア＝テレジアの娘であるマリ＝アントワネットと結婚したのち、1774年に国王に即位した。
- 3 シェイエスが、『第三身分とは何か』というパンフレットを發表して、第三身分の権利を主張した。
- 4 18世紀フランスでは、啓蒙思想と呼ばれる合理主義や科学主義の精神が広まり、フランス革命の思想的な基盤が形成された。

設問7 **A**に入る最も適切な人物名を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ミュンツァー
- 2 ツヴィングリ
- 3 スピノザ
- 4 エラスムス

設問8 **B**に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 国民公会
- 2 統領
- 3 第一帝政
- 4 総裁

IV 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

聖職叙任権をめぐる聖俗の闘争の後、ドイツ（神聖ローマ帝国）では政治的分裂が深まり、諸侯が勢力を拡大し、これとならんで独立の地位を有する自由都市（帝国都市）も台頭を見せた。オットー1世以来、ドイツ王が神聖ローマ皇帝となるという慣習が形成されてはいたものの、12世紀前半から皇帝を輩出してきたシュタウフェン朝が断絶した13世紀後半には、ドイツ諸侯により統一的な国王が選出されず、皇帝が事実上不在となる時期すら見られ、ドイツそして帝国の中央集権化は望むべくもなかった。

この「大空位時代」と呼ばれる状況は、1273年、スイス・アールガウ地方に起源をもつハプスブルク家のルドルフ1世がドイツ王＝神聖ローマ皇帝に選ばれたことで終了するが、帝国の不統一は解消されず、数年後、皇帝ルドルフ1世とベーメン（ボヘミア）王との対立は戦争へと発展した。ハプスブルク家がオーストリアを獲得したのは、このときの皇帝側の勝利を通じてである。14世紀以降のドイツでは、大諸侯の領地である領邦を単位として集権化が進んだ。有力な領邦では身分制議会が開かれ、独自の絶対王政の形成が見られた。

15世紀前半から神聖ローマ皇帝の位を独占しはじめたハプスブルク家は、15世紀後半、後に皇帝となるマクシミリアンとブルゴーニュ公女との婚姻によりフランシュ＝コンテとネーデルラントを手中に収め、マクシミリアン1世の子フィリップ（フェリペ）とスペイン王女との婚姻を契機としてスペインも統治するようになり、家門の勢力を着実に拡大していった。1494年には、イタリアの支配をめぐるハプスブルク家とフランスのヴァロワ家の間でイタリア戦争が勃発した。フィリップの子であるスペイン王カルロス1世は、1519年に神聖ローマ皇帝カール5世として選出され、伝統的なキリスト教世界の統一を体現する存在となったが、帝国の統治においては、聖俗諸侯および自由都市からなる帝国議会との妥協を余儀なくされた。ルターによる九十五カ条の論題の発表をきっかけに始まった宗教改革を背景に、帝国の分裂はより深まった。旧教と新教の対立を一つの軸とする三十年戦争は、神聖ローマ帝国における諸侯の分立状態を決定的なものとした。

17世紀半ば以降、北ドイツのプロイセンでは、フリードリヒ＝ヴィルヘルムのもとで行財政改革と軍備拡充を手段とした絶対主義国家の建設が始まり、18世紀、同国はオーストリアから鉄や石炭の豊富な **g** を獲得するなどしてヨーロッパの大国の地位を築くこととなった。プロイセンは、1806年の神聖ローマ帝国の消滅後まもなくナポレオン軍に大敗したことを契機に、「プロイセン改革」と呼ばれる近代化に着手し、1871年にはプロイセン王ヴィルヘルム1世を皇帝とするドイツ帝国を成立させ、ドイツ統一を実現した。

設問1 下線部 a に関連して、13世紀から15世紀にかけてのヨーロッパにおける中央集権化の歩みについて述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ フランス王ルイ9世は、南フランス諸侯の保護を受けた異端のアルビジョワ派（カタリ派）を制圧して王権を南フランスへと拡張した。
- ロ 領主の封建反動に対しておこされた大規模な農民一揆の後、領主層の窮乏は深刻となり、とくに中小領主のなかには国王や大諸侯によって領地を没収される者がいた。
- ハ イギリスでバラ戦争の後に王位に就いたりチャード3世は、星室庁裁判所を整備して王権に反抗する者を処罰し、絶対王政への道を開いた。
- ニ ポルトガル王ジョアン2世は貴族の反乱をはずめて王権を強化し、またインド航路の開拓を援助するなどして大航海時代の幕開けを準備した。

設問2 下線部 b に関連して、ベーメン（ボヘミア）について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ チェック人により建てられたベーメン王国は、多くのドイツ系住民を有していたことからドイツ文化の影響を強く受けた。
- ロ ベーメン出身の神聖ローマ皇帝カール4世は、「金印勅書」を發布して神聖ローマ皇帝選挙の手続きを定めた。
- ハ フランスの二月革命はヨーロッパの他の地域にも影響を及ぼし、オーストリア支配下のベーメンにおいて民族運動が高揚する契機となった。
- ニ 第一次世界大戦後、パリ近郊で調印されたヌイイ条約で、ベーメンを一部を含むチェコスロヴァキアのオーストリアからの独立が承認された。

設問3 下線部 c に関連して、オーストリアについて述べた次の文章のうち、正しい内容のものを一つ選びなさい。

- イ 第2次ウィーン包囲の後にオスマン帝国と締結したカルロヴィッツ条約を契機として、オーストリアは中・東欧における勢力を拡大した。
- ロ フランス革命期、ジャコバン派政権による宣戦布告を受けて、オーストリアはプロイセンと連合してフランス国内に侵入した。
- ハ ナポレオン3世と秘密同盟を結んだサルデーニャ王国との戦いにより、オーストリアはロンバルディアとヴェネツィアを失った。
- ニ バルカン地域でのパン＝スラヴ主義を利用したロシアの勢力拡大に対抗するため、オーストリアはベルリン条約でボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合した。

設問4 下線部 d に関連して、後にオランダ戦争をおこなってフランシュ＝コンテをフランスに併合した国王の名前を次のイ～ニの中から一つ選びなさい。

- イ シャルル7世 ロ ルイ14世 ハ シャルル10世 ニ ルイ15世

設問5 下線部 e に関連して、宗教改革について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ ルターはバイエルン選帝侯の保護のもとで『旧約聖書』のドイツ語訳を完成し、民衆が直接キリストの教えに接することを助けた。
- ロ カルヴァンは神の絶対性を強調し、魂が救済されるかどうかは、あらかじめ神によって決定されているという「予定説」を説いた。
- ハ イギリス国教会はカトリック教会から分離する一方で司教（主教）制を維持し、儀式的面でもカトリックに類似した面を有することとなった。
- ニ カトリック教会はトリエント公会議で教皇の至上権を再確認したほか、禁書目録を作成し、教会裁判所を強化して思想統制をおこなった。

設問6 下線部 f に関連して、三十年戦争について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ 三十年戦争は、ハプスブルク家によるカトリック信仰の強制に対して、ハンガリーの新教徒が反抗したことをきっかけに始まった。
- ロ 新教国スウェーデンは、国王グスタフ＝アドルフのもとでバルト海の覇権をめざして参戦し、北ドイツの沿海地域に領土を獲得した。
- ハ 旧教国フランスは、国王ルイ13世のもとで新教勢力と同盟して戦い、ハプスブルク家の勢力を後退させようとつとめた。
- ニ 講和のために締結されたウェストファリア条約で、ハプスブルク家はフランスにアルザスを奪われた。

設問7 g に入る最も適切な語を次のイ～ニの中から一つ選びなさい。

- イ シュレスヴィヒ・ホルシュタイン
- ロ ポーランド回廊
- ハ ラインラント
- ニ シュレジエン

設問8 下線部 h に関連して、ドイツ統一に関して生じた事象について述べた次の文章のうち、正しい内容のものを一つ選びなさい。

- イ ウィーン会議によりドイツ連邦が組織されたのに続き、オーストリア、プロイセンなど大多数のドイツ諸邦はドイツ関税同盟に結集した。
- ロ ドイツ諸邦の自由主義者を集めたフランクフルト国民議会は、共和政を内容とする自由主義的憲法をまとめたが、ビスマルクの弾圧により挫折した。
- ハ プロイセン＝オーストリア戦争の後、プロイセンを盟主とする北ドイツ連邦が発足し、南ドイツの諸邦もプロイセンと同盟を結んだ。
- ニ ドイツ帝国では、帝国宰相が皇帝と帝国議会の双方に対して責任を負うというシステムが採用されたが、皇帝が任命する宰相に権力が集まった。

V フィリピンは、16世紀以来アメリカ大陸と深い交易関係をもちながら、第二次世界大戦終結直後に国家としての独立を達成した。そのようになった政治的および経済的経緯を、下記の語句をすべて用いて、250字以上300字以内で説明しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、指定の語句には必ず下線を付しなさい。

銀 アギナルド アメリカ＝スペイン戦争 独立の約束